

水リスクと企業



グローバルウォーター・ジャパン代表
(国連テクニカルアドバイザー)
よしむら かつなり

吉村 和就

▶ 8

が公開されている。響などが挙げられる。

水リスクの定義とは

具体的な水リスク項目

国際間での水に関する取り決めでは、言葉の定義が大きな意味を持つ。水リスクの定義では代表的な指標は人口増加や産業の発展に伴う水ストレスの増加率、干ばつや洪水による水災害の増加率、不十分な社会インフラ(上下水道、排水路など)に起因する被害額、経時的な水資源の減少、汚

- ① 水不足に伴う水ストレス
- ② 洪水被害
- ③ 排水の法令順守コスト
- ④ 水コスト
- ⑤ 水質の劣化
- ⑥ 取水の不確実性
- ⑦ 取水制限の強化

水ストレスの影響を受ける業種

影響が大きい業種	影響が中くらいの業種
農業	建設・建設資材
飲料生産	ガス・その他インフラ
バイオマス燃料生産	什器、住宅建設、レジャー
化学産業	メディア(印刷物)
繊維・アパレル	不動産
電力、食品生産	輸送、旅行

水リスクに関する国際的取り組み

20世紀末から今日まで、水問題は世界的な重要課題の一つとなっている。1992年のブラジル・リオでの地球環境サミット、さらに国連が主導する国連ミレニアム開発目標(MDGs、2000年)では安全な水や改良された衛生へのアクセスができない人口を平減させることが全会一致で採択された。筆者は2000年の国連総会に国連職員として出席していたが、水問題では大きな盛り上がりを見た。その後の世界水フォーラム(WWF)でも水問題が継続的に大きく議論されている。

企業の水リスク問題

企業側から見た水リスク

0. 排出量の開示促進、すなわち「カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト(CDP)」から派生し、企業の水使用・排出量の開示「ウォーター・ディスクロージャー・プロジェクト」(WDP)が10年から開始された。また企業の水リスクに

政策次第で大きな経済損失 勇気持ってインフラ投資を

焦点を当てた国際会議では、「持続可能な開発のための経済人会議」(WB

どから、さまざまな水リスクに対するガイドラインや解決のためのツール

将来への警鐘

12年に発表されたCD

P-WDP報告書では、責任者であるポール・シ

ンフアンCEOは次のよ

線であり、商業活動において水の強靱性は長期にわたり確保されなければならない。
② 水は革新的で持続可能な経済繁栄をもたらす重要なドライバーである。
③ 水政策・管理を間違えると大きな経済損失を発生させる。現在、水を当たり前のように使っている政府や企業が将来の水リスクを勘案し政策や管理を実施しなければ、50年に世界経済に及ぼす影響は63兆米が、世界のGDPの45%にも及ぶだろう。これは今日の世界経済規模総額の1.5倍に相当する。
さらに同氏は「今から勇気をもって水インフラに1兆投資することは、将来の経済活動の利益として5兆の付加価値をもたらす、また同時に社会的、環境エコシステムにも大きな利益をもたらすだろう」と述べている。